令和2年度　大田区立池上第二小学校　自己評価　報告書

令和2年3月9日

○　本校の概要

本校は、児童数474名、教職員28名、講師・介添員等は学級数19（うち特別支援学級（固定）が3学級）の今年度開校92周年を迎える中規模な学校である。池二小の合言葉として、「いっしょに遊ぶ池二の子　けんこうな心と体池二の子　にこにこあいさつ池二の子」の3点がある。素直な児童が多く、学校全体は落ち着いている。校内研究では、研究主題「基礎・基本を身に付け、主体的に学習に取り組む児童の育成　～授業のユニバーサルデザイン化を通して～」として研究を進めている。PTA、おやじの会の活動も活発で、学校に非常に強力的である。地域は、市野倉南町会、堤方東町会、中央八丁目町会との関わりが深い。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン1　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	教員に対するアンケートで「これからの社会の変化に対応するために、コミュニケーション能力、情報活用能力が向上している」との回答の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	・外国語、外国語活動は、担任（HRT）と外国語教育指導員（ALT）、英語ボランティアと連携して授業を行った。ネイティブの発問に触れたり、デジタル教科書による音声を活用したり、会話の練習を通してコミュニケーションの育成を図った。 ・理科指導専門員の訪問を活用し、年間5本研究授業を行い指導・助言を受けたり、理科支援員の積極的な活用を通して授業への支援や理科室の環境整備が進んだ。 ・教員はICT機器を毎日活用した。昨年度配備された80台の児童用タブレットを高頻度で活用した。さらに、Chromebookに対応すべく臨時のICT研修を3回実施し、オンライン授業にも備えた。 ・日常的に道徳教育を中心に人権尊重教育を推進している。人権尊重週間には標語作成などに取り組んだ。 ・コロナ禍で体力テストは中止となったが、年間指導計画を見直し密にならないような運動を工夫して実施した。 ・国語と算数で研究授業を4本実施した。協議会は毎回活性化し、授業のUD化が確実に浸透した。来年度は、他教科及びUDの日常化を目指す。	A	8	・学校は、さまざまな研修体制をつくり、分かりやすい授業に取り組んでいる。また日常的にICTを活用し、大きな成果を上げている。 ・コロナで人との触れ合いが制約される中、コミュニケーション能力を高める方策がより必要になると思う。 ・ジェンダーの問題等が国策になっている。グローバルに対応ができる価値観の育成はとても良いことだと思う。 ・ICT機器を活用した授業は、まだまだ課題も多いが、Web授業などは、実施する必要がある。 ・外国人とのコミュニケーション機会（ゲームやスピーチ）、ICT活動（電子黒板やタブレットの使用、chrome book配布）は子供の様子からうかがうことができる。今後も継続して、コミュニケーション能力・情報活用能力の向上に取り組んでほしいと思う。 ・コロナ禍でのコミュニケーション育成は、難しい中の好評価と捉えることができる。 ・各町会のいろいろな分野で経験者の人材を生かして、育成を図ることを期待する。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3					B	1	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4					C	0	
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4					D	0	
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4							
		校内研究のテーマである授業のユニバーサルデザイン化（誰もが分かる授業）を意識した授業を実施する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4							
プラン2　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	保護者からのアンケート結果より「教師は学力を身に付けさせるために指導の工夫をしている。」との回答の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:60%以上 1:60%未満	3	・コロナにより学習カルテの作成が当初予定より遅れたが作成し、担任が児童と面談をして個別に学習のつまずきや学習方法について指導した。 ・ステップ学習チェックシートで児童、保護者に確実に知らせた。 ・4・5・6年生を対象に算数力アップ教室（平日補習教室）を週3日間実施した。3学期から6年生を終了し3年生を開始した。2か月間の休校から予定を組み直し授業へのT2としても活用した。 ・11月に授業改善推進プランを作成し、ホームページへ掲載するとともに、作成して終わりではなく改善し続けた。 池にゃんファイル（読書記録ファイル）に読んだ本を記録させ、6年間取りためる活動を継続している。低学年100冊、中学年80冊、高学年60冊または10,000ページを達成した際は校長が表彰している。その結果、児童の読書量が区の平均を大幅に超えている。	A	6	・コロナ禍の中でも、学習内容の定着を図るため、習熟度別に指導したり、個別に指導するなど児童の力を伸ばしている。また授業への理解度を深めることが必要な児童に向けて、算数の個別指導に取り組んでいる。 ・自己評価にあたって、不足した部分について克服していただきたいと思う。 ・学力の個人差はあるものの指導者の学習への導きで、学習への意欲や効果が大きく変わると思う。個人への目配り、対応は、大変かと思うが、、今後も頑張っていただきたい。 ・もっと図書館を利用する、活用する習慣作りが必**要である。** ・私個人としては、子供の様子から図書室の活用やセレクト学習に取り組んでいると思うが、アンケート結果の課題にて図書室活用の保護者の認識に個人差があると想定する。課題の記載通り、保護者への認識度が増すような取組を期待する。 ・学力向上に励んでほしい。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3					B	3	
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4					C	0	
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4					D	0	
		学習意欲、学習効果を高めるために、学校図書館（よみもののへや、調べもののへや）の活用や読書学習司書と連携した授業を学期に1回以上行う。（2学期から）	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4							
プラン3　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	保護者からのアンケート結果より「我が子はあいさつするなど、学校や社会のきまりを守っている。」との回答の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:60%以上 1:60%未満	3	・ハッピースマイルプロジェクト（朝の挨拶運動）に取り組んだり、池二スタンダード（学習・生活編）を活用し共通の指導を実施している。 ・2学期の授業観察を道徳に指定し、全学級で重点的に取り組み、互いに授業を見合った。コロナ禍の中、道徳授業地区公開講座を実施した。 ・学校生活調査の結果を分析し、気になる児童には担任が個別に面談を行い、必要であればSCや管理職へつなげた。 ・学校いじめ防止基本方針を年度当初に見直し改訂し、池二小いじめ対策ガイドラインを新たに作成した。いじめの認知について共通理解を図り、学校いじめ対策委員会を毎月開催し、いじめに関する授業、いじめに関する研修を年間2回実施した。 ・学校不登校対策委員会を毎月開催し共通理解を図るとともに、今年度初めて登校支援員を活用した。スクールソーシャルワーカーや子ども家庭支援センターなどの外部機関とともにケース会議を1回開催し、組織的に対応にあたった。 ・「友だちひろば」を2学期から実施したが緊急事態宣言発令に伴い、3学期に中止した。	A	6	・価値観が多様化する社会において、自己の意見をきちんと主張できる子に育てていただきたいと思う。 ・大坂なおみさんのように、強いメンタルも努力の積み重ねで取得できることなので、継続していただきたい。 ・コロナに感染した際のケアをどのように考えているのか。いじめにつながりそうなので対応が必要と考える。 ・当該プランについてはあまり情報を聞く（触れる）機会が少なく感じる。地域連絡協議会にて一部聞くレベルのため、具体的な取組を共有していただく機会を増やしてほしい。 ・一人一人の個性を見いだして心の育成に励んでほしい。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3					B	3	
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					C	0	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4							
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4					D	0	
		異学年交流である「友だち広場」を実施し、集団のきまりを守り仲間と協力する態度を育む。（2学期から）	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4							
プラン4　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	保護者からのアンケート結果より「コロナ禍において、我が子は体力向上・健康増進（感染予防）について取り組んでいる。」との回答の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:60%以上 1:60%未満	3	・5月と10月に「早寝・早起き・朝ごはん」に家庭と連携して取り組み、望ましい生活習慣の確立を目指した結果、意識を高めた。 ・学校栄養士を中心に、給食指導時及び学級活動等の時間に「食育」を全学級で推進した。 ・体育・健康教育地区公開講座はコロナのため中止した。感染拡大防止対策を取りながら種目や時間、観戦人数を工夫してミニ運動会を実施した。一校一取組では短縄跳びに全校で取り組んだ結果、休み時間等に自主的に練習する姿が多く見られた。	A	9	・コロナの中で、運動が制約される中で、体力の増進に努めていただきたいと思う。 ・コロナ禍で、ご指導もままならない中、大変だと思う。 ・オリンピックなどスポーツに触れる機会も多いので、健康な体作りを進めてほしい。 ・コロナ禍による制限（密集しないような体育の実施、給食の小分け等）について柔軟に対応できていると思う。 ・感染予防の取組が良かった。 ・コロナ禍でマスクを着用しての体力向上は大変だが、何か一工夫を期待する。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3					B	0	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	3					C	0	
									D	0	
プラン5　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	教員のアンケート結果より「教育環境の向上に努めた結果、児童の学習意欲が向上している。」との回答の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:60%以上 1:60%未満	4	・学校公開日やミニ運動会、展覧会後には保護者アンケートを実施し、全教員で回覧しその後の授業改善に生かした。 ・授業改善セミナーは中止となったが、OJTを毎月実施し、主任教諭が助言・支援を行った。また、わかば研という初任者から3年次までの若手教員へのOJTも実施している。 ・コロナにより公開授業は大幅に減少したが、2学期には各教科主任が指導教諭による模範授業に積極的に参加し、研修後には夕会等で還元した。 ・特別支援校内委員会を毎月一回以上実施し、個別に支援が必要な児童に対して組織的に対応した。 ・校内研究と連動して、ユニバーサルデザインの視点に立った教室環境を整備し、毎月点検表で確認している。	A	9	・全体的に保護者評価は高く、先生方の自己評価はそうでない結果となっている。保護者と先生方の評価に差があるのは、先生方は常に、次の目標をもって指導にあたっている結果と思う。 ・コロナで教育活動に制約があると思いますが、その影響を押さえるため、ご尽力をお願いしたい。 ・トイレが明るく、娘がお世話になっていた時とは、全然違い驚いた。　・コロナの影響を感じさせない授業が必要である。 ・HPに学校生活の様子や研究発表内容を閲覧でき、取り組み内容を把握することができる。保護者としては、有用な情報だと思う。今後も情報共有を拡大してほしい。 ・魅力のある環境づくるに各町会も協力する。頑張ってほしい。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	4					B	0	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					C	0	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4							
		ユニバーサルデザインの視点に沿った教室環境を整える。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4					D	0	
プラン6　学校・家庭・地域が一体となって共に進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	保護者からのアンケート結果より、「我が子は家庭で家庭学習及びセレクト学習をやっている。」との回答の割合	4:90%以上 3:80%以上 2:60%以上 1:60%未満	3	・臨時休校もあり、積極的にホームページで情報発信を続けた結果、更新頻度が昨年度よりも上がった。動画の公開も実施した。 ・6月と9月に地域教育連絡協議会を実施し、「開かれた学校」を目指して積極的に情報を公開した。保護者の来校を制限する中で、地域教育連絡行儀委員による適正な評価を受けるようにした。 ・今年度は、「夏のわくわくスクール」は中止した。児童の登下校の見守りを実施していただいた結果、交通安全に気を付けることができた。 ・セレクト学習が定着してきて、毎月の学年だよりの裏面で優れた家庭学習を紹介した結果、家庭学習の習慣化が進んできた。	A	7	・学校評価アンケートの回答が90%を超えたこと、保護者評価も高かったことは、学校に関する多くの情報を、学校だより、学年だより、ホームページ、授業参観、電話連絡、メールなどを通して、計画的、継続的に発信、提供してきた結果でもあると思う。 ・コロナにより、地域とのかかわりが制約される中で、難しいものがあると思う。 ・地域への必要な情報公開をして学校の状況を提供してくれている。 ・展覧会を拝見させていただいたが、コロナ禍でも子供たちが生き生きと生活ができていると感じた。 ・家庭学習を学校側が把握することが必要と考える。 ・コロナ禍による影響で地域やPTAとの連携機会が減少しており、例年通りの活動ができていない中、最小限で実施していると思う。 ・コロナ禍での活動は、難しい。今年度に期待したい。 ・今回の学校評価の取組内容の書類は、今までとは違いよくできていて分かりやすかった。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	3					B	2	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	1					C	0	
		各学年の発達段階に応じた「家庭学習スタンダード」に基づき、セレクト学習（自主学習ノート）を実施し、家庭学習の習慣化を図る。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4					D	0	
								・教員数26名 （回答は26枚、回収率は100%） ・児童数476名 （回答は441枚、回収率は92.4%）			

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。